

寒さに強い昆虫と氷期の生き残り

釧路湿原の気候は、この 6,000 年の間ほとんど変わっておらず、寒さに強い多くの種の昆虫が生息しています。この湿原には、1,000 を超える種類の昆虫が暮らしています。最終氷期の生き残りもいれば、もっと後になってからこの地域に入ってきた種もあります。

気候変動の影響

釧路地方の昆虫の多くは、かつては北海道内のはるかに広い地域に生息していました。これらの昆虫は、北海道の多くの地域で気温が上昇したため、釧路の涼しい湿原に移ってきたのです。釧路の年平均気温は 5.8 度です。これらの移動の趨勢は、地球の気候と生物多様性がいかに変わりつつあるかを示しています。

氷期の生き残り

釧路湿原にいる昆虫の亜種の中には、イイジマルリボシヤンマ（学名：Aeshna subarctica）やミズグモの亜種（学名：Argyroneta aquatica japonica）など、最終氷期からこの地域に住んでいるものがあります。これらの亜種は、欧州やユーラシア大陸で見られる亜種とほぼ同じものです。

保護種

釧路湿原は、日本の天然記念物として保護されている絶滅危惧種の昆虫のすみかです。これらの昆虫には、特徴的な白い顔をしたエゾカオジロトンボ（学名：Leucorrhinia intermedia ijimai）や、アカメイトトンボ（学名：Erythromma humerale）、およびミンミンゼミ（学名：Hyalessa maculaticollis）などがいます。この地域のほとんどは、ミンミンゼミが住むには寒すぎるのですが、屈斜路湖の和琴半島は地熱によって暖かいため、ミンミンゼミが繁殖しています。和琴半島は、日本で一番北にあるミンミンゼミの生息地です。